

## 令和7年度 第1回中央特別支援学校学校 運営協議会 報告

- 1 日 時 令和7年5月22日（木） 午前9時30分～11時30分
- 2 会 場 本校 大会議室
- 3 参 加 者

### (1) 学校運営協議委員

静岡県あさはた緑地管理事務所 所長

静岡県立こども病院 副看護部長兼教育看護師長兼認定看護管理者

静岡てんかん神経医療センター 療育指導室長

麻機学区自治体連合会 会長

静岡大学教育学部 准教授

本校 PTA 会長



### (2) 校内教職員

校長、副校長、教頭、事務長、各部主事、病弱・訪問主任、寮務主任、教務主任

## 4 会議次第および議事録（要約）

### (1) あいさつ

### (2) 運営協議会委員紹介、職員紹介

### (3) 本年度学校経営計画の説明

- ・令和7年度にむけて「みんなで考えてつくっていこう」という形で進めてきた。教育目標は昨年から引き続き、グランドデザインを修正。将来の豊かな生活ということも考えて、3部会を中心に、安全・安心、指導、連携という三つの柱で進めていく。合言葉は「キラリ&ホット」の視点で「つながりあう」学校とした。

### (4) 校内参観



### (5) 運営協議会委員からの感想、意見

- ・老朽化については、教職員がソフト面で努力しがんばっていてもハード面についてはどうしようもない。教職員ではフォローし切れない部分があって大変に感じた。
- ・大型モニターやスノーブレンなど、県の予算以外に外部資金を活用している。外部の資金を活用していくのは必要なことだと思っている。
- ・学校経営計画について。みんなで作るという姿勢はすごく大事だと思う。グランドデザインについてそういう姿勢で作られていて共感できる。
- ・物理的な安心だけではなく心理的安全性という言葉が出てくるが、本当に大事だと思う。
- ・個別の対応がメインになってくるところを、意図的に協働という言葉を使ったり、高校部のグループを超えて指導したりと常に改善を目指している姿勢が素晴らしい。
- ・どこまでを「地域」として捉えるのかという部分に意外と共通認識がないことがある。どこまでを「地域」として捉えるのかについてイメージを共有できるだけでも少し変わる。
- ・校内が整理整頓されている。安全の基本だと思う。

- ・地域との関わりについて、顔と顔合わせて、子供たちが地域の人たちと「この人、安全な人だね。」ということが分かることが大切。
- ・さすまたについて。設置してある場所が少し取り出しにくいように感じた。
- ・個別学習について、映像を使った授業をしていた。配慮や工夫があれば教えてほしい。
- デジタル教科書を使用に伴い、モニターやタブレットで授業をすることも多い。ただ、モニターやタブレットでは残らない部分があるため、ホワイトボードなども活用している。
- ・中学部の外トイレの利用について、出入りが大変そうに感じた。雨の日などは相当教員も苦労しているのではないかと。また、安全対策等があれば教えてほしい。
- 物理的に離れているのでブザーを使用して困った時に対応できるようにしている。
- ・多動の生徒について、若い教員が対応している場面があった。大事なことであるが、難しさもあると思う。経験のある教員がフォローする体制等があれば教えてほしい。
- ベテランと並んで自立活動に取り組む等の工夫をしている。また、ベテランから若手へ経験を伝えるための研修にも取り組んでいる。
- ・教科、職業の児童生徒が減り、自立活動が主の児童生徒が増えている。教科職業の地域との関わり方も難しさが出てきていると思うが、どのようにしているか。
- 東部特支や西部特支と連携を図ったり、中央高校との交流などに取り組んだりしている。オンラインでの水族館見学やてんかんセンターと居住地校とで一緒にオンライン朝の会等に取り組んでいる。
- ・掲示物などあたたかい気持ちになる。キラリ&ホットはいい取り組み。他人のいいところを見つけようという心を持っている生徒がいるということは素敵なことだと思う。
- ・舎の利用について、人数は減っているが今いる生徒の生活を大切にされている。
- ・植物を育てる、食育についてもよい。できるだけ体験をしてほしい。
- ・環境面では雨漏りや空調、カビが気になった。突然の段差（地盤沈下）についても、危ない所は県に直してほしい。教員の活気を感じる。だからこそ、ライフラインに関わる所はぜひ改善してほしい。
- ・廊下に物が多いと感じた。仕方がない部分もあるが、一昨年度に防災に力を入れていた時の対応を維持し切れていない所が出てきている。専門家の助言ももらおうとよい。
- ・個別最適な学びと協働的な学習について、やることが目的ではないので「なぜそれをやるのか」整理する必要がある。専門性の向上や類型ごとに意図的な支援ができるとよい。
- ・姿勢の取り方が少し気になった。座位やひじの位置、目の動き等、基本的な所をもう一度意識することが大切。
- ・板書やデジタル教材など、単に見せっぱなしになりがちであるが、肢体不自由の情報処理についての専門性の向上も図りたい。
- ・病院でもベテランから若手へ教えるための準備が大変。eラーニング等も活用しているが、教員間で教え合う時の教材等はあるか。看護の世界では教え合うための教材がある。
- 年次研修の中で取り組んでいるが、特別な教材等はない。特総研から出ている資料等はある。中央特支独自の取り組みとしては授業づくり研修会で中堅が若手にどう指導していくかについて、年3回中堅が学ぶ機会を設けている。

## (6) 今後の予定

第2回 令和7年9月26日（金）9:30～11:30

第3回 令和7年11月7日（金）9:30～11:30※静岡北特支と合同開催

第4回 令和8年2月17日（火）9:30～12:00